

poem 3

by aono



photo by hiro http://homepage3.nifty.com/allion_hiro/

初日の出 それは 去り行く年が来る年に出番を譲るとき

それは 去り行く年と来る年の狭間

去り行く年に何があったとしても

来る年に何が起ころうとも

今 この瞬間だけは無心でいられる

昨日の日の出と今朝の日の出

今朝の日の出と明日の日の出

違いはないかもしれないけれど 人の心の中では 確かに違う

それは 人がいつも未来を見つめているからなのか

それは 人が区切りを求めているからなのか

そんな思いを胸に 今年も初日に祈る



photo by hiro http://homepage3.nifty.com/allion_hiro/

見つめられて 君はほんのりと頬を染める

人里離れた山に咲く君は 恥ずかしがりやなんだね

見つめられて 君はかすかにうつむく

ひっそりと慎み深く咲く君は 人見知りするんだね

見つめられて 君はわずかに戸惑う

そんな君は 自分の魅力を知らないんだね

見つめられて 君はあっそう美しくなる

そして君は だんだん僕から遠くになってしまうんだね



photo by mimusan <http://mimusan.my-photo.jp/>

思い出すと 涙が滲んでくる

枯葉も 仲良く並んでいる鳥たちも

涙の向こうで ぼやけている

いつになったら忘れることができるのか

涙を流さずに 思い出せるのか

あの鳥たちのように

仲良く並んで語り合ったこと

枯葉を踏みしめて散歩したこと

思い出だけを残して

あなたはもういない



photo by mimusan <http://mimusan.my-photo.jp/>

ここにはたくさん実があるぞ

赤いイチイの実だ

どれをたべようかな

あれにしようか これにしようか

う～ん まよっちゃうな そうだあっちの枝を見よう

あれ あんまり熟してないぞ

さっきの枝に戻ってみよう

こっちは どれもおいしそうだ

あんまり多すぎて

どれを食べたらいいのか わかんないよ～



photo by mimusan <http://mimusan.my-photo.jp/>

そんな目で見つめないでくれないかな

ドキドキしてしまう

こんなに心臓が高鳴っている

そんなつもりじゃないって？

でも その目で見つめられると

こっちが恥ずかしくなってしまう

そんな目で見てもいいのは ただひとり

心から好きな人だけ

誰にでも そんな目をして見つめたら

誤解されてしまうよ



photo by hiros <http://n43e141.exblog.jp/>

厳しい環境に耐えてきた

激しい風雨にもくじけなかった

例え希望のかけらも見えなかった時も

ただひたすら未来を信じていた

長い暗い時間を過ごし ある日 微かな光を見た

硬い岩のわずかな割れ目からこぼれる光

そこに望をみつけ しがみついてきた

裂け目から這い出してきたものは

紺碧の空

やっと花開く事が出来た喜びを

決して忘れる事はないだろう



photo by hiros <http://n43e141.exblog.jp/>

暮れゆく空をガラス越しに眺めながら

以前ここへ来たのはいつだったろうかと考える

その時は独りではなかった

私の前にはあの人が座り

テーブル越しに微笑を交し合った

コーヒーの香りが鼻をくすぐり

あの人の言葉ひとつひとつに心がときめいた

今、独りでコーヒーを前にして

思い出に浸る自分がある



photob by hiros <http://n43e141.exblog.jp/>

甘美な香りに誘われて 夢の世界へと足を踏み出す

幻想の野原を彷徨いながら

いつしか深い眠りへといざなわれる

陶酔に身を任せ 幻惑に遊ぶ

やがて鼻をくすぐる香りが薄れ 目覚めの時が訪れる

見回せば そこには一面のラベンダー畑

あれはラベンダーの花と香りが見せた夢



photo by binko <http://binko.cool.ne.jp/>

太陽を背に受けると 長い影が私の前にできる

足長おじさんのような足

これは私かしら？ それとも私の後ろにいる足長おじさん？

もしも 足長おじさんがいたなら

今のような私でなく

もっともっと幸せな人生だったかな・・・

それとも これから足長おじさんは現れるのかしら

自分自身の長い影をながめながら

ある冬の昼下がり 他愛ない夢を見た



photo by binko <http://binko.cool.ne.jp/>

ガラス窓を通して入る光で

部屋は舞台に早変わり

ラインダンスのように整然と踊るシルエット

椅子に映るのは 羽毛の扇子 床に映るのは ダンサー達

揃いの衣装で 腕を組み 光にあわせて 足をあげる

一日踊って疲れた頃 夕闇の帳が降りてくる

ダンサー達も扇子をしまって眠りにつく

今日のステージは終わりをつけ

舞台は静かに暗くなる